

# 2001年 春のライラ報告



2000～2001年度 国際ロータリー第2660地区 青少年活動委員会主催

地区青少年活動委員長 有賀 一夫 (大阪咲洲)

春のライラ実行委員長 榛木登司雄 (大阪東南)

ロータリー青少年指導者養成セミナー  
“春のライラ”は、2001年5月3、4、5日(2泊3日)「心と心の21世紀 愛と信頼のネットワークを築こう!」のテーマで青少年受講生115名、出席ロータリアン等90名総勢205名の参加と415名のロータリアン登録を得、盛大克つ厳粛に大阪府立青少年海洋センター(大阪府岬町淡輪)にて、好天にも恵まれ挙行されました。



今回の基本方針

## 1. チームライラ(修了生のOB会)を光り輝かせること。

青少年指導者養成セミナー(ライラ)の成功は、このライラ修了生がどのように育っているかどうか?を見れば解ることです。受講生がライラOBを見て、素晴らしい!私もあのような指導者になりたい!と思ってくれば指導者養成セミナーは大成功に進展していると思いますが、そんな期待やその後の養成をどれだけしていたでしょうか?今、ライラの変革が提唱されています。単年度ホスト制、資金調達方法など協議されていますが、地区委員会のあり方にも問題があるでしょう。「永年の蓄積が活かされていく組織づくり」が肝要と思います。具体的提案としてライラ事業において最終収支が黒字になったらその収益をチームライラの育成資金としてファンド活用するのは如何なものでしょうか?

今回はチームライラの方々に、プログラムの構築から3日間のほとんどの司会、進行、運営の「晴れの舞台」に立ってもらい、私たちホストは裏の隠れた仕事に徹す事により一味違った指導者養成セミナーに成ったと思います。毎回ボランティアで全面的に御協力頂いている、チームライラの方々、特に今回は中川順子さん、吉田こずえさん、国分学君、森岡豊君、村木繁之君にお礼を申しあげます。有難うございました。

## 2. どんな青少年に育って欲しいと望むのか?

とおく教育は全体主義より個人主義に変わってしまいましたが、変わらぬ姿は愛と信頼であり、愛とは感謝、喜び、優しさであり、信頼とはマナー礼儀、約束、協調「信頼される自分のあり方」

と思います。若者は見えています。シビアです。言われてしまいました。「ロータリアンの私語が迷惑だった！」と

そうです。礼儀をわきまえ、まず今ある姿に感謝して、そして自分の意見をきちっと言う、「ロータリアンこそ気をつけなければならぬ！」ことを、いつの世も偉く成る程これを忘れるんですね！教えるつもりが教えられました。

### 3. 「アルコールは一切提供しない」「ホスト、ロータリアンはお酒を飲まない」

研修期間の2泊3日ホストの「ホスト東南ロータリアンはお酒を飲まない」と協議しそれを実行しました。受講生のお酒を禁止したわけではありません。提供をしなかっただけです。夜の団欒時、飲んでいるグループもありました。ホストクラブの意見として「酒を酌み交わして語らう大人のライラがしたい！」などの意見もありましたが、未成年や、慣習の違う留学生もいる、例年問題も有るとのことで、酒の善し悪しではありませんが、研修として真面目にそんな問題を討議できたことが大きな収穫と思います。

その他おもな講座として3点挙げると

- A “救急法短期講習” 日本赤十字社大阪府支部指導員の方々に、「救命手当コースの実技講習」を執り行って頂き、参加者全員非常に熱心に受講し、日本赤十字社より受講修了書を151名が頂きました。
- B コロンブスは玉子は立たないと言ったそうですが集中力を結集して生玉子を立てる実習ではほとんどの人が成功体験をして新しい概念に気付きました。
- C 今回のテーマはシラーの原詩「歓喜」から引用したことにより、なんと無謀にも時間の無いなか、ベートーベン【交響曲第九番】の合唱にチャレンジ。練習は合計わずか1時間余り程度でしたが全員一生懸命練習し、閉講式で斉唱し達成感を喜び合いました。

なおロータリーソング【手に手つないで】では、受講生から予想もなかった、アンコールが架かりましたし、そんな甲斐あってか、回収された80通のアンケート中、26名もの上級ライラへの受講希望者が有り、ホストクラブとして喜びに堪えません。末筆になりましたが、ご協力くださいました地区全クラブの皆様はじめ、青少年海洋センターの皆様、日本赤十字社の方々にお礼申し上げます。またホストの大阪東南RCの皆様ご苦労様でした。

ライラのホストは大変ですが、大変オモシロイモノデス。

